

藤 支 発 858 号
平成29年 3月 2日

保護者 様

大阪府立藤井寺支援学校
校 長 橋 本 輝 幸

平成28年度 第3回学校協議会について（報告）

平成29年2月15日（水）に開催致しました学校協議会の要旨を報告致します。

協議会会長：安元 祥二（学校法人関西金光学園関西福祉大学金光藤蔭高等学校 校長）
協議会委員：松宮 圭伺（藤井寺市立藤井寺小学校 校長） 校務により欠席
小畑 宜寛（社会医療法人医真会 介護老人保健施設あおぞら 事業部 副部長）
竹澤 住江（卒業生保護者 しゅらの郷福祉会理事 支援センターしゅらの郷管理者）
梶ヶ山 叶（藤井寺市民生委員 児童委員協議会）
安田 直美（PTA副会長） *敬称略

傍 聴 席：2名

1 開会

- ・挨拶 校長 橋本 輝幸
- ・協議会委員欠員後任として、PTA副会長安田様
- ・配布資料の確認

2 報告

① 平成28年度 進路状況について（進路指導部長）

- ・小学部 卒業予定者5名 うち 本校中学部進学予定者5名
- ・中学部 卒業予定者22名 うち 本校高等部進学予定21名 1名府立高等学校受験予定
- ・高等部 卒業予定者27名 うち 進路先決定26名 1名進路先検討中

② 教職員の勤務と健康に関する実態調査結果（安全衛生委員会）

- ・資料をもとに、結果報告。
- ・「仕事上での不安・悩み・ストレス」の項目に、2年連続パワハラ・セクハラが理由にあがってきていることについては、重く受け止めている。

（校長）補足説明：パワハラについては回答された方からの校内設置の「安全衛生委員会内ハラスメント対応委員会」への相談の申し入れがないため、実態がつかめず対策がとれていない状態である。

③ 本校における安全対策について（学校保健委員会）

- ・学校保健委員会の資料をもとに、説明
- ・事故やヒヤリハットの発生について、月別では5～6月、曜日別では木曜日に件数が多いという統計がでている。
- ・事故と未然防止に関わる研修、環境整備、ヒヤリツイートの実践報告
- ・事故報告書は、医療的ケアの項目は裏面にし、「事故後の対応」を追加。その他の項目は時系列に並べわかりやすく変更した。
- ・「医療的ケアワーキンググループ会議」にて、他校の危機管理に係わる取り組みについては、アンケート実施。類似の取り組みを行っているということがわかった。アンケートは、府立の看護師配置

支援学校（15校）に対して行った。

- ④ 平成28年度 学校教育自己診断アンケートより （教頭）
- ・保護者アンケートでは、25問中23問は93%以上の肯定的回答である。
 - ・教員アンケートでは、保護者よりも肯定的な回答が少ない傾向であった。
 - ・毎週金曜日の“ノー残業デー”や毎月1回の“なにもないデー”を設定しているが、顕著な効果はまだ現れていない状況である。

質疑応答

（教頭）卒業予定者の進路先の併用が多い理由は、

（進路部長）保護者のニーズにより、1つの事業者では対応できない面を複数施設でカバーするために多くなってきている。他校でも、併用が多くなってきているという情報を得ているがある。

（会長）「教職員の勤務と健康に関する実態調査結果」報告について。仕事量の負担感が大きいようであるが、仕事の内容によったり、年代によっては踏ん張らなければならない時期もある。話しやすい職場の雰囲気作り等、横の繋がり方の面を改善していけば、解決していけることもあるのでは。「学校教育自己診断アンケート」の集計結果について。教員はシビアに考えている傾向にある。回答の「あてはまる」と「ややあてはまる」の回答について細かく分析しても見えてくるものがある。

（校長）ストレスチェックの結果より、本校の高ストレス状態である教職員の割合は全国のレベルと同じ10%であるが、10%を減らすのはハードルが高いと捉えている。

3 協議

- ① 平成28年度 学校経営計画及び学校評価について（校長）
- ・教職員のアンケートの回収率が下がった。原因としては、アンケートの回答システムの変更が影響していると考えられる。来年度改善していきたい。
 - ・進路指導部の今年度の取り組みで、進路指導に関わる項目のポイントが昨年度より増加している。
 - ・来年度以降も、校長のリーダーシップを発揮していかなければいけない。
 - ・**項目1 教職員の資質向上を基とした学校力向上（1）専門性の維持・継承と向上**
校内における管外出張報告を軸とした研修は、年々中身が充実してきている。研修での発信は、教員のスキルアップにつながる。
 - ・**項目3 学校・家庭・地域の連携と安全で安心な学校づくり（1）地域連携とセンター的機能の発揮**
地域支援に出ている教員の地域支援に関わるスキルアップに力を入れてきた。今後は、地域支援を担っている教員の更なる授業力アップも併行して進めていかなければならない。
 - ・**項目3 学校・家庭・地域の連携と安全で安心な学校づくり（3）防災対策の強化**
実際に災害がおこった時のことを想定し、課題を検討していく組織を今年度立ち上げている。

質疑応答

（会長）項目1 教職員の資質向上を基とした学校力向上（3）教職員の健康維持・増進の自己評価について。校務分掌業務の教員の負担感は、分掌会議の持ち方にもあるかもしれない。

（校長）職員会議等の大きな会議は、事前に議題を調整しているため、整理ができています。学年、クラス、係等の会議は、子どもの情報共有に時間がとられている。

（会長）情報共有と意思決定の協議の場を分けてみるのもひとつの案。特に情報共有については、他の場面でもできる場合が考えられる。

(PTA) 個別の教育支援計画・個別の指導計画についての研修に、初任者や事業所の人も参加できるようにできないか？

(校長) 保護者への周知を主に考えているが、PTA と協力して今後の研修の持ち方等を考えていきたい。

(医療) 職場環境に関わるアンケートの結果に、教員からのなんらかのリアクションはあるのか？

(首席) 現場からの声は上がってきていないが、来年度への分掌改編等の取り組みにむけて参考にさせてもらっている。

(医療) アンケート対象が変わると、回答が変化することもある。アンケートを継続していくとよい。「専門性を備えているか」については、医療現場では分かりやすいが教育現場ではとらえにくいのではないか。

(教頭) 「分掌業務の負担」については、アンケート結果をうけて分掌長に投げかけたが、応答はない状況である。

(会長) アンケート結果をうけて、教職員がどう思ったかの思いを吸い上げる方法をとってもいいかもしれない。

【ストレスチェックの分析について】

(事務長) 学校の特色柄、身体への負担は他の校種よりストレスがかかっている。同僚や上司からの支援については、良好な結果がでている。本校は全体的にストレスの少ない領域に入っている。高ストレス者は女性のほうが高く男性は少ない。人間関係や家庭のことが関わっているのかもしれない。他校も同じ傾向にある。

【教育支援計画・教育指導計画の研修について】

(首席) 来年度は、①家庭にファイルを持ちかえって、じっくり目をとおしてもらおう②ファイルを活用していく を考えている。保護者の方がどう「活用」しているのか教えていただきたい。

(PTA) 提示されても、個別の教育支援計画等の活用について、十分に把握されていないように思われる。校内のみの活用だと思っている。卒業後の移行やつながりにどのように活用するかまで詳しく説明が必要である。

② 平成29年度 学校経営計画について (校長)

質疑応答

(PTA) “SOS!!～私のたすけ方” カードや非常袋の回収率をあげるために、始業式や終業式などの節目の機会に学年便りなどで知らせてはどうか。

(首席) PTA から引き継いだ資料をもとに、必要な情報を練り上げ、来年度4月以降に 教員→担任→保護者へもう一度周知していく機会を設け啓発してきたいと考えている。その中で、ご意見をいただいたような内容の案も検討していきたい。

4 協議のまとめ (会長)

(校長) 次年度からは、学校協議会を、子どもの帰った放課後の時間に設定させていただきたいと考えています。1年間ありがとうございました。

閉会